



兵庫県香美町

プレスリリース



令和2年11月16日発信

マスコミ関係各位

情報発信元・取材等のお問い合わせ先

かみ
香美町役場神戸営業所 担当：木原 弘一郎 きはら こういちろう

神戸市中央区下山手通 5-1-1 興栄ビル 501号

tel/fax：078-599-5179 mobile：090-5962-2967

e-mail：info@kami-kobe.jp

800年も昔にたどり着いた
御崎集落の平家伝説

撮りにおいでよ 香美町



香美町役場観光商工課



ももて
伝統行事 **「百手の儀式」** が1月28日に行われます

平家再興の願いを受け継がれてきた伝統行事



【兵庫県香美町】の観光PRをしています香美町役場神戸営業所の木原弘一郎と申します。

今から800年も昔、壇ノ浦の戦いで源氏に敗れた平氏がたどり着いたとされる、平家落人伝説の残る香美町香住区の御崎集落で行われる伝統行事「百手の儀式」が1月28日に行われます。この「百手の儀式」は**平家再興を願い受け継がれてきた伝統行事**で、**平家の武将に扮した若者3人が源氏に見立てた的へ101本の弓矢を射る**ものです。

御崎在住の語り部に聞いた御崎集落の平家伝承の話を基に作成された冊子「平家村のおはなし」にはさまざまな秘話がつづられています。

この冬の旅企画などございましたら、ご取材につきましてご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、実際に取材に入っただけの場合には、より詳細な情報提供、スケジュール調整、撮影アテンドなど地元調整を含めた最大限のご協力をさせていただきますので、何なりと香美町役場神戸営業所 木原までお問い合わせください。

詳しくは裏面をご覧ください

御崎の平家伝説

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。驕れる者久しからず、ただ春の夜の夢の如し。猛き人もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。」

平家物語は誰もが知っているこの有名な文句で始まり、平家一門の公家や武者たちが、壇ノ浦の戦いで力尽き、あるいは源氏に生け捕られるなどし、栄華を極めた平家の悲しい末路が描かれています。

物語中では命を絶つたとされる平家の武将たちが、落ち延びて人里離れた山間の僻地や孤島で細々と暮らしていたといわれる平家落人伝説の残る集落は全国各地にあります。

香美町香住区にも平家伝説の地が5カ所あり、中でも香住区余部の御崎集落は、壇ノ浦の戦いで敗れた門脇宰相平中納言教盛（かどわきさいしょうへいちゅうなごんのりもり＝平教盛、平清盛の異母弟）を大将とし、伊賀平内左衛門家長、矢引六郎右衛門らが同じ船に乗り込み、遠く吉岐、対馬方面に逃れようとしたところ、日本海を漂流し香住の近くの流れ着き、磯づたいに御崎まで落ち延び、土着したとされています。

当地にはそれを裏付けるかのように門脇家、矢引家が現存しここで生活しています。



▲断崖絶壁の地にある御崎集落

■伝統行事「百手の儀式」

現在も伝承されている平家にまつわる伝統行事「百手の儀式」が毎年1月28日の午後3時半ごろから平内神社で行われています。

これは、なんとしてでも平家復興を願い、日々の鍛練、文武の練磨を怠らず、その修練の歴史が今も行事として残っているものです。

当日は、集落の若者3人が、門脇、伊賀、矢引の武将に扮し、境内の御神木に源氏に見立てた的を目掛けて、地区内で採取した竹で作った弓矢で101本の矢を射ます。

他の地方でも弓を引く行事はたくさんありますが、そのほとんどは神事で、五穀豊穡や無病息災を祈る行事です。ところが、御崎集落の「百手の儀式」はまったく違い、神事には関係なく、むしろ自分たちの努力で平家を復興させてやるという、固い決意が行事になったものです。



▲「控えー控えー、脇に寄れー」と声をかけながら平内神社へ向かう

■天の恵みの「平家蕪」

御崎集落にはこの地にしか育たないと言われる「平家蕪（へいけかぶら）」という蕪が自生しています。平家がこの地に身を寄せた際、土地がやせた人里離れた場所であったため、たちまち食料に窮してしまい、神に祈願したところこの蕪に恵まれるようになったとされています。春には菜の花に似た黄色い花を咲かせ、現在でも一部の家庭では漬物にして食されています。



▲源氏に見立てた的を目掛けて矢を射る武将に扮した若者

■御崎「平家村のおはなし」

香美町香住観光協会の職員が、御崎集落在住の語り部に聞いた伝承を基に作成した冊子「御崎 平家村のおはなし」には、村のはじまりや暮らしの様子、百手の儀式のことなど御崎集落の平家伝承の秘話がつづられています。



▲御崎集落に自生する平家蕪